

部名	教育部	課名	文化課
----	-----	----	-----

1. 基本情報

事務事業名	03 美術館事業				事業類型	施設運営受益者負担型						
予 算	会計	10	一般会計	款	10 教育費	項	04 社会教育費	目	04 美術館費	予算額	38,090	千円
長期計画	章	4 文化・交流活動がいづつくまち			施策分野	2 歴史・文化・芸術	基本施策	(3) 市民文化・芸術活動の振興				
関連計画	実施計画	事業番号・事業名										
根拠法令等	博物館法、青梅市美術館条例											

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	目的（どうい状態にしたいのか）
観覧者、美術館利用者	市民の美術の振興を図る。

3. 事業の指標と単位当たりコスト

成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	29 年度	30 年度 A	平成31年4月1日現在人口	対前年度 B-A	市民1人当たりコスト(b/人口)
						元 年度 B		
観覧者数	年間観覧者数 (市民ギャラリーを除く)	人	目標		10,000	10,000	0.0	577.7 円
			実績	9,348	18,243	12,092	-6,151	
			単位コスト	7,791 円	5,327 円	6,381 円	1,054 円	市民1人当たり純行政コスト(f/人口)
市民ギャラリーの稼働率	開館日数に対する稼働率	%	目標		45.0	45.0	0.0	
			実績	42.7	50.0	40.7	-9.3	
			単位コスト	1,705,714 円	1,943,580 円	1,895,848 円	-47,732 円	529.1 円

4. 行政コスト計算書

勤定科目					勤定科目				
29 年度決算額	30 年度決算額 A	元 年度決算額 B	対前年度 B-A	29 年度決算額	30 年度決算額 A	元 年度決算額 B	対前年度 B-A		
職員給与費	28,186	28,639	28,622	-17	分担金・負担金	0	0	0	0
賞与等引当金繰入額	2,202	2,361	2,378	17	使用料・手数料	1,374	2,831	1,970	-861
退職手当引当金繰入額	0	21,017	0	-21,017	その他	4,738	2,048	4,523	2,475
その他	129	129	187	58	合計(a)	6,112	4,879	6,493	1,614
小計	30,517	52,146	31,187	-20,959	臨時損失(c)	0	0	0	0
物件費	28,984	32,902	33,188	286	臨時利益(d)	0	0	0	0
維持補修費	2,596	1,519	2,567	1,048	臨時損益(d-c=e)	0	0	0	0
減価償却費	10,360	10,160	9,814	-346	純行政コスト(f)=(b-a)-e	66,722	92,300	70,668	-21,632
その他	0	0	0	0					
小計	41,940	44,581	45,569	988					
支払利息	0	0	0	0					
その他の業務費用	0	0	0	0					
その他	347	422	375	-47					
小計	347	422	375	-47					
小計	72,804	97,149	77,131	-20,018					
補助金等	30	30	30	0					
その他	0	0	0	0					
小計	30	30	30	0					
合計(b)	72,834	97,179	77,161	-20,018					

(単位：千円)

区 分	29 年度	30 年度	元 年度
有形固定資産減価償却率	80.1	80.7	81.9
受益者負担割合(a/b)	8.4	5.0	8.4

科 目	29 年度決算額	30 年度決算額 A	元 年度決算額 B	対前年度 B-A
国庫支出金	0	0	0	0
都支支出金	0	0	163	163
その他	6,112	4,879	6,493	1,614
合計	6,112	4,879	6,656	1,777

5. 人員体制 (単位：人)

	29 年度	30 年度 A	元 年度 B	対前年度 B-A
職員	2.90	2.90	2.90	0.00
再任用職員	1.00	1.00	1.00	0.00
嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00
計	3.90	3.90	3.90	0.00

6. 行政コストの主な事項

	経常費用	経常収益・臨時損益
決算額の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> 美術館管理経費 <ul style="list-style-type: none"> 光熱水費 6,034,618円 施設管理委託料 4,162,800円 設備保守委託料 3,703,130円 修繕料 2,567,097円 美術館事業経費 <ul style="list-style-type: none"> 展覧会実施委託料 3,564,000円 消耗品費 2,774,406円 作品運搬等委託料 1,023,796円 	【使用料・手数料内訳】 <ul style="list-style-type: none"> 美術館使用料 145,400円 観覧料 1,824,630円 【その他の主な内訳】 <ul style="list-style-type: none"> 光熱水費等業者負担分 123,518円 書籍販売収入 30,300円 物品販売収入 3,026,679円 物品販売手数料 302,054円 美術館実技講座参加者負担金 16,100円 退職手当引当金減額分 1,024,000円
主な増減理由	維持補修費の増額は、空調設備の不具合による修繕が前年より多く発生したため。	経常収益の増加は、特別展「中島潔 新しい風 一希望 明日へ生きる」の開催による物品販売収入等が増加したため。

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A		
資産の部	事業用資産	1,044,350	1,034,838	-9,512	負債の部	地方債	0	0		
	土地	886,792	886,792	0		退職手当引当金	24,637	23,648	-989	
	建物	702,158	702,158	0		その他	0	0	0	
	減価償却累計額	-565,277	-574,041	-8,764		1年内償還予定地方債	0	0	0	
	その他	20,678	19,931	-747		未払金	0	0	0	
	有形固定資産	0	0	0		賞与等引当金	2,361	2,378	17	
	土地	0	0	0		その他	0	0	0	
	工作物	0	0	0		合計	26,998	26,026	-972	
	減価償却累計額	0	0	0		純資産の部	固定資産等形成分	2,245,870	2,236,256	-9,614
	その他	0	0	0			余剰分(不足分)	-26,998	-26,026	972
	物品	1,183,936	1,183,936	0			合計	2,218,872	2,210,230	-8,642
	減価償却累計額	-12,416	-12,518	-102			負債および純資産の部 合計	2,245,870	2,236,256	-9,614
	無形固定資産	0	0	0						
	投資その他の資産	30,000	30,000	0						
	現金	0	0	0						
未収金	0	0	0							
徴収不能引当金	0	0	0							
その他	0	0	0							
合計	2,245,870	2,236,256	-9,614							

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産(土地)	勘定科目	事業用資産(建物)
決算額の主な内訳	美術館用敷地(公簿) 4,006.41平方メートル 第2駐車場用地(公簿) 1,767.34平方メートル	決算額の主な内訳	美術館 鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階 延床面積 1,674.01平方メートル 喫茶室 鉄筋コンクリート造 1階 延床面積 70.5平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	なし

9. 事業の評価【一次評価】

30年度末時点の課題事項	・特別展「タンボールアート遊園地 集まれ子どもたち!!」は、多くの観覧者が来館し、大好評であったが、企画展の観覧者数は依然として低調な状況にある。 ・経年劣化による緊急修繕を実施しているが、建物本体や空調設備、照明設備、エレベーターなど更新、改修の必要な部分に計画的な対応が進められていない。	対応結果	一部解決	事業目的を達成するための元年度事業目標【Plan】	・特別展については、年1回の開催とし、市民が関心を持てるようなわかりやすいものを実施する。 ・企画展については、館蔵品の有意義な活用のため、来館者アンケート等を参考に内容を検討、開催していく。 ・現在進めている美術館と郷土博物館の複合化の検討に合わせ、施設全体の改修、更新についても検討を進める。
事業目標達成に向けた主な活動実績【Do】	・特別展「中島潔 新しい風 一希望 明日へ生きる」では、当初目標の4,600人に対して5,266人(1日平均約85人)となり、大人をターゲットにした企画として多くの方に御来館いただき、大変好評であった。展覧会会期中にはギャラリートーク、夏休み親子体験教室や関連グッズの販売など観覧者を満足させる企画等を実施した。 ・特別展のほか年度中に企画展を2回、共催展を2回実施した。館蔵品による企画展においてもギャラリートーク等を実施し観覧者の増加に努めた。共催展においては、西多摩ゆかりの芸術家と共催した展覧会や、小学校造形作品展を開催した。 ・経年劣化の進む美術館設備について、緊急的に対応する必要があるものの早期の修繕等対応に努めた。また今後整備を進める必要のある老朽化の進む空調設備の現状確認や館内照明のLED化、故障が発生したエレベーターの更新について工事担当課と検討した。 ・美術館等複合化検討委員会を組織し、美術館と博物館の複合化について検討する中で、施設の現状と課題等について整理した。	事業目標達成度評価【Check】	達成		
【必要性】事業の公共性 市民ニーズ	高い(一定の必要性あり)	【効率性】費用対効果	良い(改善の余地あり)	【有効性】事業目的に対する事業実施の効果	高い(改善の余地あり)
元年度末時点の課題事項【Check】	・特別展においては、目標を上回る方に御来館いただいたが、企画展は例年と同程度の来館者となり、特別展と企画展での観覧者数に大きな開きがある。 ・経年劣化による緊急修繕を実施しているが、建物本体や空調設備、照明設備、エレベーターなど更新、改修の必要な部分に計画的な対応が進められていない。	今後の方向性【Action】	改善	次年度の取組【Action】	・特別展については、年1回の開催とし、市民が関心を持てるようなわかりやすいものを実施する。 ・企画展については、館蔵品の有意義な活用のため、来館者アンケート等を参考に内容を検討、開催していく。 ・現在進めている美術館と郷土博物館の複合化の検討に合わせ、施設全体の改修、更新についても検討を進める。

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評価	観覧者数および市民ギャラリーの稼働率については、前年度と比較し減少となったものの、観覧者については指標目標を2,000人以上上回り、ターゲット層を的確に捉えた特別展や企画展であったことを示しており、市民の美術振興を図ることを目的とした観覧者数の増加に向けた取組ができた。 しかしながら、単位コストが増加している点については、入場料収入を確保する観点からも、今後も集客力の高い展覧会を継続して打ち出していく必要があり、より低コストで魅力的な展示を実施できるよう、さらなる検討・研究をしていく必要があるとともに、特別展の入場料の価格設定について検討する。 また、施設の老朽化に伴う維持補修に係る経費も膨らんでおり、今後、郷土博物館との統合を検討していくなかで、施設全体の補修については、計画的に進める必要がある。
----	--